

## 平面内の領域の面積

- 区間  $[a, b]$  で  $f(x) \geq 0$  ならば、定積分  $\int_a^b f(x) dx$  は、 $y = f(x)$  のグラフ（曲線）と、3つの直線  $x = a, x = b, x$  軸で囲まれた図形の面積である。
  - 2つの曲線  $y = f(x), y = g(x)$  と2つの直線  $x = a, x = b$  によって囲まれる図形の面積  $S$  は
    - 区間  $[a, b]$  において、 $f(x) \geq g(x)$  ならば、 $S = \int_a^b \{f(x) - g(x)\} dx$ 。
    - 一般に、 $S = \int_a^b |f(x) - g(x)| dx$ 。
- ※定積分の性質（p.85 定理2.）を参照。
- (面積)  $= \int_a^b (\text{長さ}) dx$ 。

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 1/5

## 「微分積分学の基本定理」の証明

### 微分積分学の基本定理

$[a, b]$  で連続な関数  $f(x)$  に対し、 $S(x) = \int_a^x f(t) dt$  とおく。  
このとき、 $S'(x) = f(x)$  が成り立つ。

- 仮定から、 $f(x)$  は最大値・最小値をもつ； $m \leq f(x) \leq M$ 。
- $m(b-a) = \int_a^b m dx \leq \int_a^b f(x) dx \leq \int_a^b M dx = M(b-a)$ 。

$$\therefore m \leq \frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx \leq M$$

- 中間値の定理より、 $\frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx = f(c)$  を満たす、 $a \leq c \leq b$  が存在。

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 2/5

## 「微分積分学の基本定理」の証明（続き）

- 中間値の定理より、 $\frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx = f(c)$  を満たす、 $a \leq c \leq b$  が存在。
- $h > 0$  ならば、

$$\begin{aligned} \frac{S(x+h) - S(x)}{h} &= \frac{1}{h} \left( \int_a^{x+h} f(t) dt - \int_a^x f(t) dt \right) \\ &= \frac{1}{h} \left( \int_x^{x+h} f(t) dt + \int_a^x f(t) dt - \int_a^x f(t) dt \right) \\ &= \frac{1}{h} \left( \int_x^{x+h} f(t) dt \right) \\ &= \frac{1}{h} \{(x+h) - x\} f(c_x) = f(c_x) \quad (x \leq c_x \leq x+h) \end{aligned}$$

$$\therefore S'(x) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{S(x+h) - S(x)}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} f(c_x) = f(x).$$

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 3/5

## 2重積分と累次積分

- 2重積分：平面内の領域  $\Omega$  と2変数関数  $f(x, y)$  から定まる量；（リーマン和の極限）

- $\iint_{\Omega} f(x, y) dx dy$

- 累次積分：定積分の繰り返し（計算方法）

- $\iint_{\Omega} f(x, y) dx dy = \int_a^b \int_{\varphi_1(x)}^{\varphi_2(x)} f(x, y) dy dx$
- $\iint_{\Omega} f(x, y) dx dy = \int_{\alpha}^{\beta} \int_{\psi_1(y)}^{\psi_2(y)} f(x, y) dx dy$

### 注意

- 2重積分の  $dx dy$  と累次積分の  $dx dy$  は意味が違う。
- 積分順序は、積分領域  $\Omega$  の表現方法に依存する（一意的ではない）。

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 4/5

## 空間内の領域の体積

- $\Omega$  上で  $f(x, y) \geq 0$  ならば、2重積分  $\iint_{\Omega} f(x, y) dx dy$  は、底面が  $\Omega$  で、上面が曲面  $z = f(x, y)$  の柱体の体積である。
- この柱体は空間内の領域

$$V = \{(x, y, z) \mid (x, y) \in \Omega, 0 \leq z \leq f(x, y)\}$$

と表すことができる。

- $\iint_{\Omega} f(x, y) dx dy = \int_a^b \int_{\varphi_1(x)}^{\varphi_2(x)} f(x, y) dy dx$  ならば、 $\int_{\varphi_1(x_0)}^{\varphi_2(x_0)} f(x, y) dy$  は、上の柱体を平面  $x = x_0$  で切ったときの切り口の面積を表す。
- (体積)  $= \int_a^b (\text{面積}) dx \left( = \int_a^b \left( \int_{\varphi_1(x)}^{\varphi_2(x)} f(x, y) dy \right) dx \right)$ 。

クォータ科目「数学」第8回（担当：佐藤 弘康） 5/5